

真砂の者達が去った後……道成寺の僧達は、おそろおそろ……まだ燃えている鐘のまわりに集まって来た……。
鐘の中の安珍はどうなっただろう……？

僧達は……水を汲んで来て火を消し……熱く焼けた鐘を冷やした。

鐘を持ち上げて……僧達は……びっくりし、そして……感動した。

鐘が、空気を遮断して……ちょうど、炭焼き釜と同じ効果をおよぼしたのだろう……。

安珍は、真っ黒に炭化していたけれど……まるで、生きているように、きちんと、坐禅を組み……手は……印を結んで坐っていた。

それが……一心に、経を唱えながら、死んでいったように……僧達にはみえた。

……むろん……それは、本当は、安珍が、手にナギ人形を持ち……清姫の姿だけを思い浮かべながら死んでいった結果だったのだけでも……